



**「暮らし」も学び  
「生きる力」も育む  
自由な居場所**

「木のねっこ」は、学校に行かない・行けない子どもたちが、日々の体験の中で、生きる力を育む居場所です。

**共感**

**大地に根ざし、自分の力で生きる感覚を育む**

自然の中で、火を起こし、土に触れ、手を動かし、表現する日々の積み重ねの中で、子ども自身が自分の力に気づいていくことを大切にしています。

薪を割り、火を起こし、毎日の煮炊きを行うこと。

お米を苗から育て、稲刈りをし、足踏み脱穀やとうみを体験すること。

でこぼこのある大地を歩き、身体を使って遊び、つくり、壊れたものを直すこと。

そうした暮らしの営みの中で、子どもたちは自分の感覚を育てていきます。

「できない」「うまくいかない」場面に出会っても、工夫し、やり直し、失敗を経験として積み重ねていく。

そのプロセスそのものが、生きる力になると私たちは考えています。



**薪の火で煮炊き**



**でこぼこのある原っぱで遊ぶ**



**稲刈り後のとうみがけ**

## 広がり

### 子どもたちの暮らしを、社会とゆるやかにつなぐ

木のねっこでは、自然体験・農・食・DIY・アートといった活動を、特別なプログラムとしてではなく、日常として行っています。

アートの時間には、その日のテーマを設けながらも、見本は示さず、子どもたちがそれぞれの感覚や興味をもとに、自分の個性を思い切り表現しています。

また、月に1回の遠足（遊園地、スノーボード、川遊び、映画、水族館など）では、仲間と体験を共有し、世界を広げる機会をつくっています。

年に2回開催する「木のねっこふえす。」では、子どもたちが自分の作品やつくったものを並べ、販売や発表を行います。

これは交流イベントではなく、子ども自身が社会と関わる場です。自分の表現が誰かに届く経験は、大きな自信と実感につながっています。

日々の活動や子どもたちの姿はSNSで発信し、「特別なことをしなくても、こんな居場所ができる」というモデルとして、地域や他の団体にも届くことを目指しています。



のびのびアートを楽しむ



川遊び遠足



「木のねっこふえす。」で販売

## 成果

### 子どもが自分の足で立つ瞬間が、確かに生まれている

2025年度も、火曜～金曜（10:00～15:00）の活動を継続し、午前中はテーマ活動（自然農・アート・DIY・食）、午後はボードゲームやカードゲーム、バドミントンなどを通して自由に過ごしました。

継続的な関わりの中で、

- 自分からやりたいことを選び、動けるようになった
- 失敗してもまた挑戦し、工夫する姿が増えた
- 人との距離感を自分で調整できるようになった

といった変化が、日常の中で自然に見られるようになっていきます。

木のねっこは、子どもたちが安心して根を張り、それぞれのタイミングで枝を伸ばしていく場所です。これからも、暮らしに根ざした経験を大切にしながら、子どもたちの「生きる力」が育つ場であり続けます。



自然農畑での野菜づくり